

1. 7月全国行事
 - 1) 国民安全の日 7月1日
 - 2) 全国安全週間 7月1日～7月7日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 6月、梅雨時期の安全衛生管理 高温・多湿・・・危険リスクが増大
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 事故・災害事例から : 発火したジエチルエーテルで火傷
5. ヒヤリハット事例 : 高温物との接触

2. 安全・衛生・防災の心得 : 6月、梅雨時期の安全衛生管理 高温・多湿・・・危険リスクが増大
6月から7月にかけての梅雨どきは高温多湿の気候で、多くの職場では安全衛生管理に関して問題の多い時期です。梅雨どきの高温多湿の職場環境は、設備や環境の危険リスクが高まるだけではなく、人も「不安全・不健康な状態」になりやすいものです。次の注意点について適切に対処しましょう。
 - ①電気設備・取扱いに注意
高温多湿による絶縁不良や劣化があり、人の側も衣類や皮膚の湿潤化によって電気抵抗が下がっている。
 - ②濡れた床や足場に注意
室内でも通路や階段、足場が濡れていたり水を含んでいて滑る。
 - ③保護具や衣類の不良・不具合に注意
保護メガネや防塵・防毒マスク等の機能が低下。作業衣などの衣類が不衛生に。
 - ④作業行動の省略や手抜きに注意
雨の中での屋外作業や行動では、降雨が支障になってつい省略行為やルール違反を行いがちに。
 - ⑤車の運転に注意
車や自転車、歩行でも、降雨時は視界が悪く、事故を起こしやすい。
 - ⑥熱中症に注意
体がまだ暑さに慣れていないことや、熱中症の意識が低いことなどで、熱中症にかかりやすい。
 - ⑦紫外線に注意
この時期の紫外線は特に強く曇りの日でも多量に浴びる。
 - ⑧健康管理に注意
高温多湿は、高血圧や心臓病等の生活習慣病の悪化を招きやすい。食中毒や夏風邪などにも要注意、など。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①勝田工場

露出した配管にトラテープを巻き躓き防止



②総合技術研究所

ゴミ分別ルールを場所ごとに掲示



4. 事故・災害事例から : 発火したジエチルエーテル

(1)災害のあらまし

前日にスカム(圧延油と鉄粉が絡んだもの)から溶剤を使い異物を抽出する作業を行い一晩放置し自然乾燥させた鉄粉が発熱し、近くにあったジエチルエーテルの蒸気に触れ発火した。

(2)災害の主な原因

- ①本作業はドラフト内の指定作業であったにもかかわらず、ドラフト内で行わなかった。
- ②傍らに蓋の開いたジエチルエーテルの瓶が置かれていた。
- ③発火しやすい鉄粉が発熱する状態にあった。
- ④慣れた作業のため作業者に油断があったこと。
- ⑤過去にもジエチルエーテルの発火事象があったにもかかわらず教訓として活かされていなかった。など

(3)災害の防止対策 例

- ①人的:発火、引火性の高い物質の取扱い作業に対する再教育など
- ②物的:引火性の高い物質の近くに鉄粉等を置かないなど
- ③管理的:発火、引火危険作業の手順書の作成及びドラフト内作業の義務付けなど

(4)環境安全部から

溶剤等危険物が含まれる物質は、管理不足や誤った使用により火災や爆発等の重大災害の危険性をはらんでいます。化学物質リスクアセスメントやSDS情報の熟知等事前に危険有害性について十分な知識を持ち、その上で使用方法や取扱いルールをきちんと運用することを徹底しましょう。

5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事例 | 高温物との接触 |
| どこで | 熱処理炉ブース内で |
| あらまし | 炉周辺に落としたエアークラップを回収する際、炉に右手が触れ熱さを感じた。 |
| 原因 | 無理な回収と保護具(手袋等)不十分 |
| 教訓・対策 | 回収は十分な保護衣(具)を付け、道具等使用し安全に行う |